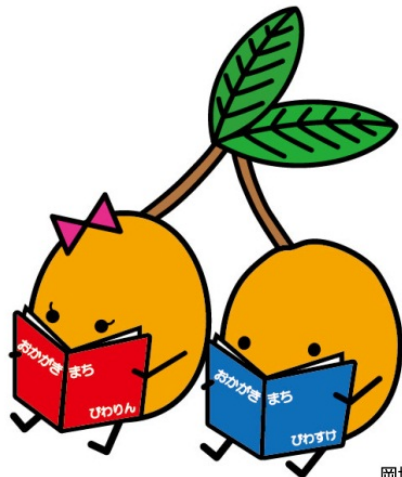


家庭での読書（家読）のすすめ

～ 家庭でのコミュニケーションを ～

乳児期・幼児期編



岡垣町イメージキャラクター
♥ひわりん&ひわすけ★

うちどく
家読とは・・・

家庭のみなで、読書活動に取り組むことを「家読（うちどく）」と言います。家庭のみなで図書館を利用したり、好きな本について話し合ったり、読み聞かせをしたりすることで、家庭でのコミュニケーションが増え、絆も深まります。

テレビを消して、「家読（うちどく）」に取り組んでみませんか。

岡垣町教育委員会

《子どもの発達段階に応じた読書を》

1 乳児期

おなかの中の胎児は、妊娠4か月の頃から聴覚の発達が始まり、成長とともに様々な音を聞き分けるようになります。絵本の読み聞かせや語りかけで、胎児とのコミュニケーションをとり、心穏やかな気持ちでこの時期を過ごすことは、生まれてくる子どもにとっても大切なことです。

乳児期は、赤ちゃんにとって心身ともに成長の上で基礎となる大切な時期です。自分の周りの親しい人から絵本を読んでもらい、ゆったりと幸せな時間をたっぷり過ごすことで、人に対する信頼感を育み、絆も強く結ばれます。そのためには、保護者をはじめ周りの大人が、絵本や読み聞かせ等についての知識を持ち、身近にいつでもたくさんの絵本がある環境が必要です。

2 幼児期

幼児期は、あらゆるものに関心を持ち、いろいろなことを吸収しようとしています。この時期になると、簡単なお話の世界に入っていくことができます。絵本の中に自分と同じ姿を見出すことで共感したり、安心したりします。また、言葉を覚えるだけでなく、心の成長に不可欠な、豊かな心と家庭での信頼感を育むことにもつながってきます。

就学前は、自立心が芽生え始め、絵や文字に興味を抱くようになってくることから、子ども自身で興味や関心を抱いた絵本を手にとることができるような環境づくりと多様な読書ができる環境を整えることが必要です。



～ 家読（うちどく）って、どうするの？ ～

読み聞かせは、子どもの心を豊かにすると同時に、大人（保護者）と子どもの心をつなぐ大切なふれあいの場でもあります。そのため、まず大人が絵本に触れ、絵本を楽しむことが一番です。

大人は、どうしても子どもに早く本を読んでもほしいと思いがちですが、「家読（うちどく）」は、「本を読みなさい」「本を読ませよう」とするのではなく、基本は「子どもと一緒に本を楽しもう」というものです。家庭で本に親しみ、楽しい空間と時間の共有を大切にしたいものですね。

（家庭で楽しめる絵本の読み方）

- 1 大人も子どもも楽しみましょう！
- 2 絵本は子どもに読ませるのではなく、大人が読みましょう！
- 3 絵本は繰り返し読みましょう！
- 4 絵本は読みっぱなしでいいのですよ！（感想は聞かないで）
- 5 一日一冊でも読み続けましょう！（5～10分で読めます）



【地域のイベントに、積極的に参加しましょう】

岡垣町は、サンリーアイ図書館（毎月第2・4土曜日と毎週日曜日：おはなし会）をはじめ、中央公民館（毎月第1・3火曜日：親子読み聞かせ教室）・こども未来館（毎月2～3回：乳幼児ひろば）で読書に関わるイベントが実施されています。

特に、乳児期・幼児期の子どもにとっては、家庭と異なる環境や同じくらいの年齢の子ども達とふれあいながらの読み聞かせや体験活動も、大変良い経験になりますよ。図書館便りやイベント案内等をご覧になり、子どものために積極的に参加してみませんか。

～ 家読おすすめの絵本 ～

大人になっても覚えている絵本が、子どもに読ませたい本・家読（うちどく）に向いている良い絵本だと言えます。

また、小学校低学年の読書にも、絵本は欠かせません。乳幼児期に繰り返して読んでもらった絵本が、小学校入学後の子どもの最良の読書の友となります。

家庭での読書（家読）に向いていると思われる絵本を記述しておきますので、家読をするときの参考にさせていただければと思います。



【おすすめの絵本】

- | | |
|----------------|----------------|
| ○ がたんごとんがたんごとん | ○ だるまさんが |
| ○ くつついた | ○ にんじん |
| ○ いない いない ばあ | ○ あおくとときいろちゃん |
| ○ パパ お月さまとって | ○ はなをくんくん |
| ○ おおきなかぶ | ○ てぶくろ |
| ○ すてきな三にんぐみ | ○ こんとあき |
| ○ ぐるんぱのようちえん | ○ おおかみと七ひきのこやぎ |
| ○ おおかみと七ひきのこやぎ | ○ にじいろのさかな |

家読でよく読まれている絵本やおすすめの絵本をインターネットやサンリーアイ図書館からの情報を基に記述しています。お子様の成長に合わせて、読み聞かせをする絵本を選んでください。少し長い物語でも、「耳からの読書」を通すことが、一人で本を読むことができる入口となりますよ。